

愛知県議会議員 わたらい克明の 県政ジャーナル

—議会だより—



人と地域と政治をつなぐ! 庶民派

2010年 初冬号 (第46号) 発行人 わたらい克明 事務所 豊橋市舟原町155 舟原マンション203



人と地域と政治をつなぐ! 庶民派

私の自宅の庭で咲いた
～四季折々の花～

★きく(菊)



◆花ことば◆

「高貴」「高尚」「高潔」

「私を信じて下さい」「女性的な愛情」

「清浄」「破れた恋」「真の愛」

(白)「誠実」「真実」



神田知事に要望 平成22年度愛知県の重点事業の執行及び9月補正予算編成に関する要望を神田知事に行い、懇談をいたしました。

私たち公明党県議団は、生活者である県民の皆さんが、安心して健やかに暮らせる愛知づくりに向けて、11項目の重点事項を要望書に取りまとめ提出いたしました。

(※項目はホームページでご覧下さい) <http://www.watarai.org/msg/msg.cgi?page=5>

ごあいさつ

愛知県議会議員

渡会 克明

寒さも口毎に増します今日この頃、皆様方におかれましては、ご健勝のこととご推察申し上げます。

さて、文部科学省と厚生労働省が十一月十六日に発表した来春卒業予定の大学生の就職内定率は、十月一日時点で前年より四・九ポイント低い五七・六%となり、調査を始めた一九九六年以降最悪を記録しました。

「就職氷河期」と言われた二〇〇〇年前後でも、この時期の内定率が六〇%を切ることはありませんでした。それを考えると、今回の結果は大変大きな衝撃であります。これは大きな社会問題であり、第二の「失われた世代」をつくらないためにも、就職支援に万全を期すことが不可欠であります。

しかも、文科省の学校基本調査では、今春、進学も就職もせず進路未定のまま大学を卒業した学生は八万七〇〇〇人の上っています。

来春に向けた就職戦線が、かつてない険しさであることは火を見るよりも明らかであります。新卒時に大量の未就職者を生むことになれば、将来的に日本経済の大きな損失になることは間違いありません。

菅首相は口では「雇用、雇用」と言っていますが、実際の対応からは全くスピード感も危機感も感じられません。

私は、現場の生活実感が解らずして、政治に携わることにはできないと思います。これからは現場第一主義で、雇用問題はじめ皆様方のご意見、ご要望を、施策として実現できるよう全力で頑張ってまいります。

今後とも全力で議員活動、議会活動に取り組んでまいりますので、どうか一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十二年十二月



県議会報告

平成22年
9月定例議会

本会議一般質問 (質問と答弁の要旨一部抜粋)

9月議会本会議にて、質問を致しました。
県議会録画中継が下記アドレスで視聴できます。
<http://www.pref.aichi.jp/gikai/tyukei>



◆子宮頸がんなどのがん予防対策等について◆

【渡会克明議員質問要旨】

子宮頸がんは、わが国で年間約1万5000人が罹患し、約3500人が死亡していると推計され、近年、若い女性の罹患が急増、若年化傾向もあり、死亡率も高くなっています。結婚前、妊娠前の罹患は女性の人生設計を大きく変えてしまいかねず、子宮頸がんの予防対策が強く望まれています。

ただ、ほとんどの子宮頸がんはヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が原因と解明されていることや、子宮の入り口(頸部)にできるために観察が容易なことなどから、定期的な予防検診(細胞診HPV検査)と予防ワクチンの接種の両輪により、効果的に「予防できる唯一のがん」であるといわれています。

そこで、従来から行なわれている子宮頸がん検診を予防検診にまで拡大する必要があります。また、予防検診の実施についても、市町村任せにするのではなく、受診機会を均てん化すべきであります。

一方、子宮頸がん予防ワクチンについては、公明党は早期承認をいち早く国に求め、その結果、昨年10月に臨床試験を経てハイリスクの16型和18型を予防するための二価HPVワクチンの使用が承認され、10歳以上の女性に予防接種が可能となったところであります。

ワクチンは半年間で計3回の接種が必要で、その費用は5万円程度と高額なことから、諸外国の多くは公費助成で接種を行っています。日本でも、一層の普及促進に向け、公費助成を進めていく必要があります。

そんな中、独自の公費助成制度を創設した県や市町村が増加をしています。本県でも、名古屋市、東海市、設楽町、飛島村などがあります。

最近の厳しい財政状況を考えますと、一斉接種を始められない市町村も出てくるのではないかと恐れ、このままでは

地域によって大きな予防の格差ができてしまいます。

県内で医療サービスに格差が生じることは見過ごせないことであります。このことを私は非常に危惧しております。居住地域を問わない接種機会の均てん化が、今後の課題であります。

そこで、お伺いをいたします。

女性の命を救うための子宮頸がんの予防対策は、もはや待ったなしの状況であります。子宮頸がんを早期に発見するため、がん検診のさらなる推進について、どのようにお考えか。

また、子宮頸がんワクチンの接種について、県内の地域における予防格差が発生しないようにするため、県として、今後、どのような具体的かつ効果的な対策を講じるお考えか、お伺いをいたします。

さらに、子宮頸がんワクチンのように、接種費用を自己負担しなければならない、いわゆる任意の予防接種には、ヒブワクチンや肺炎球菌ワクチンなど、まだまだ多くありますが、特に、この二つのワクチンは、小児の細菌性髄膜炎の予防に、大変有効であると聞いております。

このため、細菌性髄膜炎の予防に有効な予防接種を、是非とも、全ての子どもたちにひとしく受けさせたいと考えておりますが、県はヒブワクチンや肺炎球菌ワクチンなどの任意の予防接種の推進について、どのように取り組んでいかれるのか、お伺いをいたします。

【健康担当局長答弁要旨】

まず、がん検診のさらなる推進についてでございます。

この子宮頸がんの予防には、適切な時期にワクチンを接種するとともに、定期的に子宮がん検診を受診することが、効果的であると認識いたしております。

がん検診につきましては、本県のがん対策推進計画にも、検診受診率の向上をしっかりと位置づけております。このため、愛知県生活習慣病対策協議会の下に設置されたがん対策部会やがん検診精度管理委員会において、県内の受診率や取組体制を分析・評価し、その結果を各市町村にフィードバックするとともに、昨年度より開始された「女性特有のがん検診推進事業」の円滑な実施に向けて担当者会議を開催するなど、市町村を強力に支援しております。

さらに、保険会社、金融機関等と連携して、民間企業の活力やアイデアを活用したイベントの実施や啓発資料の配布を行い、がん検診の啓発や企業内での受診勧奨などを積極的に推進しているところであります。

わたちゃんの フォト・NEWS



市民参加の拠点誕生



地球市民交流センターへ団で視察を行いました。この施設は愛・地球博の理念と成果の継承を発展させる核となる施設です。市民参加と交流活動の拠点として、また風



力発電、ドライミスト、ヒートポンプなど、自然を利用した持続性のあるエネルギーシステムも構築されています。また、アート性を持たせた展示もありました。

今後とも、これらの取組を一層進めることで、さらなる受診率の向上を図ってまいります。

次に、子宮頸がん予防ワクチンの接種についてでございます。子宮頸がんワクチンは、今回初めてがんを予防できるワクチンとして実用化されたものであり、子宮頸がん予防にとって大きな効果があることから、できるだけ多くの方にこのワクチンを接種していただくことが望ましいと考えております。

国におきましては、来年度の概算要求に、事業費の3分の1相当が市町村に対する補助として盛り込まれたところであり、これが実現すれば費用負担について一定の軽減が図られ、接種の促進に資するものと考えますが、法律上の位置付けや健康被害が起きた場合の対応方法、さらには今回の補助制度の詳細な内容など、明確になっていない部分もございます。

また、現在、国の厚生科学審議会に設置された予防接種部会におきまして、どのような予防接種に公的関与が適当であるかが検討されておりますことから、この動きを注視しつつ、情報収集に努め、県民の皆様にも正しく理解していただくための普及啓発や、市町村における事業実施を支援するための担当者会議を開催するなど、予防接種の円滑な推進に努めてまいります。

次に、ヒブワクチンなど任意の予防接種の推進についてお答えをいたします。

子どもの細菌性髄膜炎は、初期には発熱以外に特別な症状がみられない場合が多いため、早期診断が困難であり、また、抗生物質が効かない薬剤耐性菌も出現しており、近年治療が難しくなっております。

このため、細菌性髄膜炎を予防できるヒブワクチンや肺炎球菌ワクチンは大変有効であります。

本県としましては、全国衛生部長会や「国の施策・予算に対する提案・要望」において、ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンを始め、水ぼうそうや、おたふくかぜのワクチンにつきましても、早期に予防接種法に位置付けて定期接種化を図るよう、平成19年度から毎年、対象ワクチンを順次拡大して、国に要望してまいりました。

一方、国におきましては、先ほど申しあげた厚生科学審議会に設置された予防接種部会で、このヒブや肺炎球菌につきましても、本年4月から検討を開始しておりますことから、今後の動向を注視いたしますとともに、必要な予防接種が早期に全国一律に実施されるよう、引き続き国に対して強く要望してまいります。

【渡会克明議員要望要旨】

検診について要望したいと思います。

子宮頸がんは、他のがんとは違い、検診で「がんになる前の状態」を発見できるため、定期的に受診すれば約80%の早期発見が可能とも言われています。しかし、日本では検診受診率が極めて低く、受診率の向上に努める必要があります。

そこで要望ですが、検診率の向上に向けては、若い世代を意識した受診体制が望まれます。どうか工夫をした普及・啓発等の対応をよろしくお願いしたいと思います。

県としても国に対し、乳がん・子宮頸がん検診の無料クーポン配布事業の継続・拡大等を、強く要望していく必要があると考えます。是非とも事業が後退することのないように取り組みをお願いいたします。

【渡会克明議員再質問要旨】

予防ワクチンの接種について、再質問したいと思います。

子宮頸がんの発症を「ゼロ」に近づけるため、さらに、公平な医療サービスの均てん化を図るために、人道的見地から本県でもワクチン接種に対する助成制度を創設すべきと考えますが、ご所見をお伺いいたします。

【健康担当局長答弁要旨】

女性の命と健康を守るためには、住んでいる地域にかかわらず、速やかに、できるだけ多くの方に接種を進めることは、ワクチンの意義、有効性からも重要であると認識しております。

このワクチンの接種費用に対して、補助を実施又は予定している市町村は、本年7月の国の調査に回答した1,744市町村中、126市町村であり、本県におきましては、議員ご指摘のとおり4市町村が実施されると伺っております。

また、都道府県では、10月開始の徳島県を含めまして3都県に止まっております。

一方、このワクチンは、現時点では任意接種の位置づけでありまして、先ほど答弁させていただきましたとおり、国におきまして、予防接種のあり方について審議されており、具体的な制度設計は未だ明らかではございません。

これらを踏まえ、来年度予算にも関係いたしますことから、現時点で助成制度の創設につきましても、具体的にお答えすることは困難と考えております。ひとつ、ご理解の程、お願い申し上げます。

※上記以外にも「ドクター・ヘリの活用による救急医療体制の充実・強化について」「『いいともあいち運動』の新たな展開について」質問しましたが、紙面の都合上省略させていただきます。詳細は、県議会議録中継でご覧下さい。

女性の命を守る



愛知県がんセンター尾張診療所を視察しました。この診療所は、一宮市立市民病院と統合し開院となりました。愛知県立循環器呼吸器病センターの施設の一部を利用して、乳がん検診の拠点として開設され、がん検診の受診率の向上に貢献しています。来春からは、外来での化学療法(抗がん剤治療)も実施される予定になっております。

介護予防を支援



「あいち健康プラザ」内にある「あいち介護予防支援センター」を視察しました。このセンターは、専門的な知識・技術の普及啓発や他市町村の実効のある実施方法を紹介する機関として、また、市町村格差の解消等から、介護予防事業等を効果的に推進していくためのセンター機能を持つ、全国初の常設機関として設置されました。



知ってますか?

消費者被害にあわないための6か条

日ごろからこの6か条を守り、悪質商法の被害を未然に防止しましょう

- ①見知らぬ訪問者には注意して、家にいれない
- ②知らない人の話し相手になったり、預貯金・年金・健康状態などのプライバシーは教えない
- ③必要がなければ「いいえ」ときっぱり断わる
- ④その場で契約したり、お金を渡さず、落ち着いてよく考える
- ⑤契約する前に、契約書や説明書をよく読む
- ⑥家族や友人など信頼できる人に相談する



無料で点検、点検後に不安をあおり、リフォーム工事や高額な商品の契約を迫る

点検商法

主な商品・サービス

屋根や床下工事(床下換気、床下除湿剤等)、浄水器、ふとん類 など

こんな手口に注意!

「点検に来ました」といって訪問し、不安をあおって必要のない商品・サービスを契約させます。「あなただけ特別」「今なら特典付き」などの言葉で巧みに誘います。一度契約すると、次から次へと契約を迫る悪質な事例もあります。

♡ 助言 ♡

- ◆突然「点検する」と訪問されたら、十分警戒しましょう。
- ◆最初は「無料」と言いながら、法外な料金を請求する悪質な業者もいます。代金はすぐに支払わず、周りの人などに相談しましょう。
- ◆契約を急がせる業者は要注意です。数社から見積りをもらい、相場を調べてみることも大切です。
- ◆いらぬものはきっぱり断りましょう。

得した気分させて、最後に高額商品売りつける

催眠(SF)商法

主な商品・サービス

家庭用電気治療器具、ふとん類、健康食品 など

こんな手口に注意!

「粗品をプレゼントします」と引換券を渡したり、「健康に関する講習会を開く」「新商品を紹介する」と言って会場に人を集め、日用品を無料で配り、得した気分させて雰囲気盛り上げてから、言葉巧みに高額商品売りつけます。

また、会場に閉じ込められて、強引に契約を迫られる場合もあります。

♡ 助言 ♡

- ◆タダより高いものはありません
- ◆プレゼントにつられて、安易に会場に行かないようにしましょう。雰囲気に吞まれて冷静な判断ができなくなります。



暮らしの相談110番

■ 県議会控室 ■

〒460-8501
名古屋市中区三の丸3丁目1番2号
電話 (052) 954-6714
FAX (052) 961-2013

■ 事務所 ■

〒440-0813
豊橋市舟原町155 舟原マンション203
電話 (0532) 21-7200
FAX (0532) 21-7228

■ 自宅 ■

〒440-0028
豊橋市多米東町二丁目20番地の12
電話 (0532) 62-9633
FAX (0532) 64-4368

URL <http://www.watarai.org/>

E-mail katsuaki@watarai.org

◆ 県政へのご要望、ご意見など何でもご相談ください。また、法律・税務相談等もお気軽に ◆